

河口域の生き物研修（月例行事）報告書

- 1：日時 2019 年 5 月 9 日
2：集合場所 大阪ボランティア協会 2 階会議室
3：参加者 24 名

背景

今年度より、森海として大阪湾生き物一斉調査に参加しない方針が総会で承認されたが、河口域の生き物に関しては独自に継続して観察することになった。7 月 4 日に近木川河口での生き物調査を行うにあたって、個々人がある程度同定ができるようになるという目標を立て勉強会を施行した。

午前中（10~12 時）貝塚市自然遊学館の山田浩二先生の講義

最初に近木川河口干潟の生き物の分類するうえで、どのグループ門であるかを意識するようにという説明があった。ちなみに自然遊学館では約 20 年間近木川（葛城山に源流をもち、貝塚市を還流する 18km の 2 級河川）の生物調査を行っている。近年大阪湾は大部分が人工護岸になっていて、二色浜と、近木川河口のみ自然の護岸が残されており、映像では昔と現在の海岸線の変遷が示された。1968 年にはなんとアカウミガメの上陸、産卵が見られたそうである。2005 年からは、二色浜でアマモが観察され、現在では海水浴の障害物となるほど繁茂している。大阪府では 2003 年から近木川干潟再生地（汽水ワンド）をめざして実験的取組がおこなわれ、大阪湾では絶滅したといわれている生き物が住み着いていることが確認されている。

午後から 3 班に分かれて、過去の大阪湾一斉調査で行った貝、かに、海藻のプリントされた写真を用いて同定をおこなった。非常に骨のおれる作業であったが、全員積極的に参加した。最後に代表が正解を発表。貝類約 40 種類、カニ 9 種類、海藻 10 種類の名称が提示された。午後 3 時終了。

この勉強会を通じて、生き物の写真撮影に関して、①大きさがわかるようにスケールをいれるか、もしくは番号カードの大きさを統一しておくこと。②貝は立体的に把握するため必ず 2 方向から映すこと。③カニは甲羅と腹部と両面を撮影すること（雌雄決定の為に）。以上 3 点が必要であることが解った。さらに私見であるが、貝の同定に関しては、基準となる点（植物であれば、季節性、花の色や、葉のつき方など）が解らず、そのため図鑑は役立たず、普段見慣れていないこともあり、ハードルが高すぎるのではないかと思われた。